

令和2年度
牧之原市議会視察研修報告書

視察日 令和3年3月30日（火）

視察先 ◇ 山梨県笛吹市（リニア実験線工事による水枯れ問題
について）

（欠席議員：名波喜久議員、鈴木千津子議員、大井俊彦議員）

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

1 番議員 鈴木 長馬

研 修 名	令和2年度 全議員視察研修
研修の期間	令和3年3月30日（火）
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>1. トンネル工事により水枯れが起こった御坂町について 河川2系統が減水、井戸8地区10ヵ所が枯渇。河川についてはトンネルから出る湧水を河川へ戻している。簡易水道は井戸細堀削りし、管理棟の補償金も有り、補償は30年間であり、30年後の取り決めはされていない。</p> <p>2. 水枯れ発生の状況とその後 減渇水が発生した地区（河川2系統、天川、金川）には地元の立場に立ち市が間に入り、建設主体である鉄建公団（鉄道運輸機構）に働きかけ対応した。生活用水については、緊急災害用上水タンクの使用や井戸補償、恒久対策による市場水道使用により補償されたので、市民生活に大きな影響は出なかった。</p> <p>3. 実験線の工事前説明会は誰がどのように行ったのか。実験線ルート発表時は、JR東海、鉄道総合研究所、鉄建公団の三社の担当者で行われ、工事着手を前提にした説明会は、JR東海、鉄道運輸の担当者が行った。</p> <p>4. 説明会での県の関わり方は 水枯れの対応は事業主体が行うものであり、県は説明会のやり取りに立ち会うが対応を行う立場にない。</p> <p>5. 工事による環境（希少種を含む生態系等）への影響について 環境影響評価書及びHP公表結果のみであり地域住民からの変化に対しての意見は聞いていない。</p>	

工事の現場は、土被りは 800～1,000Mであり、地区ごとの説明会は、1 地区を 100～200 回やった。両脇の調査、井戸、川のデータをもらった。

地区の対策として、独立の水質と水位のデータはとった。影響が出てくる 1 KM以上でも水枯れ等には対処してくれた。

以上の事から大井川の減水と笛吹市の水の枯渇では、8 地区と 60 万市民の生活、商工業への影響が想定される規模の違いがあり、J R 東海としては、笛吹市での枯渇では独自で対策できる藩中であると考えられる。

大井川の水は生活用水、農業用水、工業用水へ供給している。水資源及び自然環境への影響は重大であり、トンネル工事に伴う河川流量の減少量を把握し、8 市 2 町の話し合いによる、大井川に戻す湧水量の決め方や自然環境への影響等を J R、県、国交省と協議しながら解決していくことが地元住民利水者も安心できるのではないか。

6. リニア見学センター

リニア実験線の走行等の説明を受けた。



湧水を河川へ



湧水を河川へ



リニアトンネル入り口

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

2 番議員 濱崎 一輝

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>今静岡県では、リニア中央新幹線静岡工区のトンネル工事をめぐる水枯れや自然環境への影響など様々な問題を抱えている。中でも大井川中下流域への地下水への影響は、牧之原市にとっても市民生活をはじめ様々な業種に多大な影響を与える可能性を含んでいる。</p> <p>現在有識者会議が国土交通省を交えて行われているが、会議が一部の人しか見られない非公開での開催であり、その後に出てくる議事録も信憑性を欠くなど、この会議のあり方も問題視されている。</p> <p>そんな中今回は、リニア実験線工事による水枯れ問題が既に起きている山梨県笛吹市と、二リアの走行試験が行われている山梨県立リニア見学センターへの視察を行った。</p> <p>◆ 山梨県笛吹市行政視察研修</p> <p>笛吹市からは、市長・議長・リニア対策特別委員会委員長他関係者が出席。牧之原市からは、市長・議長以下議員及び事務局が出席。最初に、こちらからの事前質問への回答をいただいた上で、その後様々な意見交換が行われた。</p> <p>意見交換の後は、実験線トンネルからの湧水が見られる現地視察を行った。</p> <p>以下、質疑内容の概略を抜粋</p> <p>Q1. トンネル工事により、水枯れが起こった御坂町について</p> <p>A1. 河川 2 系統が減水。井戸 8 地区 10 ヶ所が渇水。 河川：トンネルから出る湧水を河川へ戻している。 簡易水道：再度井戸を掘削。(配管・管理棟も新しくなり補償金あり) ※補償は最高 30 年で、その後取り決めなし。(農業用水は畑灌加入による補償) どの補償も地縁団体と鉄建公団で行われており、市の関与はなし。</p> <p>Q2. 水枯れ発生の状況とその後</p> <p>A2. 減渇水が発生した地区における対応 (簡易水道、湧水、農業用水、自家井戸、河川</p>	

等)は、市が間に入り鉄建公団(現在は鉄道運輸機構)に対応依頼。

市民生活への影響: 応急対応が迅速に行われたため、影響は少なかった。飲料水は緊急災害用上水道タンクの使用や井戸補償、恒久対策による市上水道使用により補償された。実験線においての現時点での対応は行われていない。

Q3. 実験線の工事前説明会は、誰がどのように行ったのか

A3. ルート発表の初期段階では、JR 東海、鉄道総合研究所、鉄建公団(鉄道運輸機構)の三社が行った。

工事着手を前提にした説明会は、担当区間により JR 東海または鉄道運輸機構が行った。

Q4. 説明会での県の関わり方は

A4. 県は説明会には立ち会うが対応を行う立場にはない。

Q5. 工事による環境(希少種を含む生態系等)への影響について

A5. 環境影響評価書及びHP公表結果のみであるが、地域住民からの変化に対しての意見は聞いていない。



トンネルから流れ出る湧水



この水路を通り
河川に湧水が戻される

◆ 山梨県立リニア見学センター視察研修

以前プライベートでこの施設を見学したことがあるが、その時はこんな立派な施設ではなくもっと簡素なものだったという記憶がある。新たに新設されたこの施設は、リニアがまさに夢を叶える未来の乗り物であるという事を印象づけるものだと感じた。

確かに、リニアの構造やそのスピード感はとても興味深いものがあり、魅力的な乗り物であるということは否めない。その証拠に、多くの来館者が目を輝かせている状況を目の当たりにすれば、この乗り物に対する期待感を感じずにはいれなかった。

しかし、コロナ禍で一気に働き方改革が進み、リモートでのビジネスが当たり前のよう

になっていくこれからの時代に、果たしてどれだけの人がこのリニアを利用するのか。リニアを計画して当初とは大きく時代が変化しており、利便性だけでなく採算性についても再検討していく必要があると感じたのは私だけではないと思う。



最新型のリニア試験車両



高い料金でも高速移動を望む人は
どれほどいるのか

(総括)

笛吹市との意見交換の中で特に印象に残ったのは、工事着手前の地元事前説明会は1地区100～200回（年間10回位）とかなりの回数を行っていたこと。地元の許可が絶対条件とのことで、段階を踏みながら問題を一つ一つクリアしていったことである。

また、リニアに対する考え方は、立ち位置により異なることも実感した。実際に、リニアの開通を待ち望んでいる笛吹市では、今回のこの実験線トンネル工事による湧水は、市内の河川に戻されており特に大きな問題とは捉えていないように感じた。同時に、JRの対応にも満足している様子が伺われたが、これもリニア開通後に山梨県内に新駅構想があることで、その後の経済波及効果を考えれば納得ができる。

しかし、静岡県はリニアが開通する事でのメリットは何一つなくデメリットばかりである。こと水枯れ問題に関しては、トンネル工事中の湧水が県外へ流出することで、大井川中下流域への地下水への影響は計り知れないものがあり、かなりの温度差を感じた。

その後の現地視察では、実験線トンネルから流れ出ている湧水がどのように河川に戻されているのかを確認した。

実験線トンネルだけでもこれだけの水量の湧水があるのかというのが実感できたが、この水は同じ市内の河川に戻される訳であり、この状況であれば特に大きな問題と捉えていないというも頷けた。

本線のトンネル工事では、どの程度の湧水があるのかをイメージするのは困難を極めるが、工事に伴う湧水は確実に静岡県外に流出する訳であり、安易に工事に着手することを許可することができないという気持ちが強くなった。

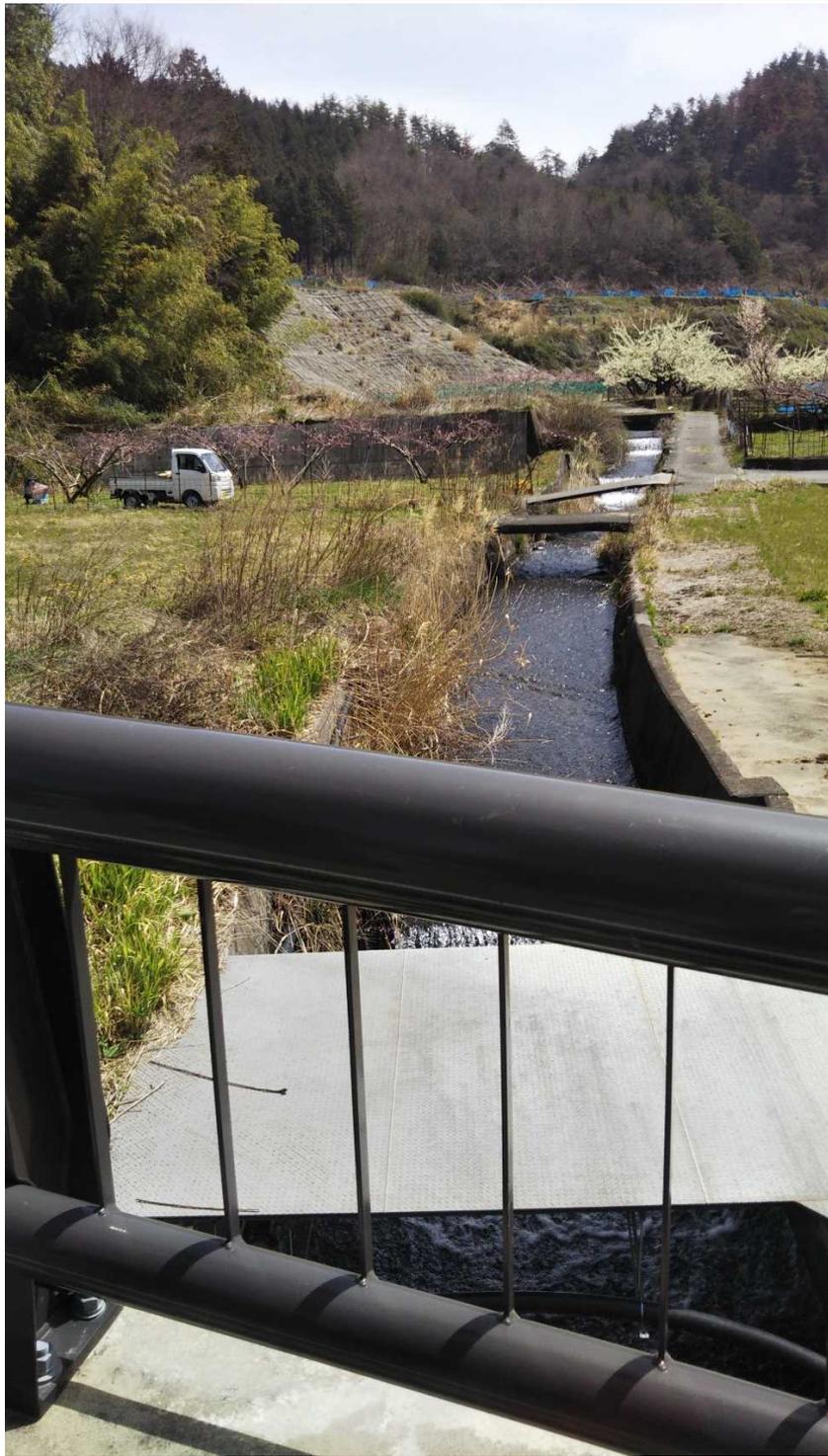
今後、大井川中下流域の8市2町の自治体と足並みを揃えながら、県と共にJR東海に対して粘り強く水源確保に向けての交渉を続けていくべきであることが確信できた、有意義な視察研修であった。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

3 番議員 原口 康之

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>山梨県笛吹市、リニア中央新幹線実験線トンネル工事により市内を流れる河川 2 系統の減水、井戸 8 地区、10 か所が枯渇した。</p> <p>市では、市民生活への影響（簡易水道、湧水、農業用水、自家井戸、河川等）を考え建設主体である鉄建公団（鉄道・運輸機構）に働きかけを行い迅速な対応を頂き、影響を最小限に抑えた。</p> <p>その対応については、河川 2 系統の減水はトンネルからの湧水を河川に戻した。簡易水道においては、再度井戸を掘削し配管・管理棟も新しくして補償金で管理する形とした。農業用水については、畑灌加入による補償がされた。飲料水については、緊急災害用上水道タンクの使用や、井戸の補償、恒久対策による市上水道使用により補償されそれらの補償期間は、最高 3 0 年の取り決めがされた。</p> <p>実験線工事前説明会について、初期段階では、J R 東海、鉄道総合技術研究所、鉄建公団（鉄道運輸機構）の 3 社が担当し、工事着手を前提にした説明は、J R 東海または鉄道運輸機構の担当者が行った。</p> <p>説明会での山梨県のかかわりについて立ち合いはするが対応する立場ではないとした。工事による環境への影響は、地域住民からは出ていない。</p> <p>山梨県立リニア見学センターについて、東京—大阪 6 7 分と飛行機による移動 8 0 分より短縮が予想されるため完成後は、全て環境に影響を与えることが予想されて現在の社会状況がどの様になるのか楽しみでもあり、地域格差が進む可能性もあるためしっかりとリニア新幹線完成後の研究も必要であると考えます。</p> <p>笛吹市への視察研修を終了して、トンネル工事により半径 1 km～2 km の間で水の枯渇が起これば枯渇範囲では市民生活が営まれ水による様々な問題が発生し、建設側がほぼ全てにおいて補償したがその対応は狭く限定された地域での出来事であり、大井川流域 8 市 2 町の問題とは比較にならない。仮に中央新幹線静岡工区に当てはめても限定的影響が出たとしても広大な範囲の中で、どこまで影響があるのか、ないのか判断出来るのか疑問である。調査研究するにも対象地域が私有地であり立地を考えると正確な影響評価は困難かもしれない。</p>	



トンネルからの湧水を河川に戻す水路



山梨県立リニア見学センターにて

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

4 番議員 吉田 富士雄

研 修 名	令和2年度 全議員視察研修
研修の期間	令和3年3月30日(火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>リニア新幹線の問題は、私が現状を見た限りでは想像以上に工事が進んでいたことに驚かされました。</p> <p>笛吹市にはリニア駅ができメリットがあり、牧之原市では水枯れのリスクばかりでメリットはありません。</p> <p>リニアの件よりも、今回の研修をきっかけとして、交流を深め観光、農産物の販売など、お互いにメリットのある研修を重ね、友好都市となる様、努めていけたらと私は思いました。</p>	

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

5 番議員 平口 朋彦

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>我々、牧之原市のみならず大井川流域に立地している 8 市 2 町にとって目下最大の懸案事項である「リニア静岡工区の水資源及び環境についての問題」に関し、市議会ではこれまで意見書や要望書を各方面に提出しており、また勉強会を開催する中で、あらためてその問題の深刻さについて認識を深めてきた。個人的にも今から約 7 年半前、市議会議員として臨んだ初めての一般質問で取り上げた「リニア問題」であるため、その後も常に学んできたところである。そして今回、リニア実験線のトンネル工事等により、実際に水枯れが発生してしまった山梨県笛吹市へと市議会として視察に訪れる機会を得た。</p> <p>工事着手にあたってはしっかりと地元説明会がなされたとのことだが、結果として「河川 2 系統、井戸 8 地区 1 0 か所」に及ぶ水枯れが発生した。しかしながら副市長（当時は市担当職員だったとのこと）曰く「過剰なまでの補償があった」との発言のほか、おおむね笛吹市としては「リニア事業」に対して好意的に受け取っているといった印象で、水資源の損失や環境破壊への懸念から、構想そのものに懐疑的な我々静岡県民との感情的な乖離があったことは否めない。だが水枯れ発生当時の状況や、以後の対応、近隣市民の反応、生活への影響等について詳細にお聞きできたことは非常に参考になった。気になった部分としては、市民生活への影響はごくわずかといえども、各所で起こった沢枯れに関しては対策をされておらず、また補償された箇所についても 30 年という有期のものであるため、地域の将来を考えた時、長期的な視野に立った検討も必要ではないかと感じた点である。総じて、1 級河川である大井川とは利水者数の規模や流出水量がそもそも違い過ぎるため、我々の地域にそのままスライドして比較検証ができるものばかりではない。いずれにせよ、事業者のスタンスや行政の関与の仕方などあらかじめ知ることができた面では大変有意義であったと思われる。</p> <p>笛吹市庁舎での研修のあと、実際に水枯れのあった「金川」のトンネル抗口付近へのご案内いただき現地視察をした。トンネル掘削により流出した湧水全量を再び河川</p>	

へと戻すため、導水管から水が噴き出ているさまを見ることができたが、思いのほか激しい勢いで出ていることに驚かされたというのが本音のところである。これが大井川で想定されている（あくまでも机上の数値）毎秒2トンともなれば、いったいどれほどのものになるのかと想像するだけで背筋にひやっとするものを感じざるを得なかった。そこに自然とあるものを人為的に変えることの影響はやはり計り知れないものがあるのではないか。

その後、山梨県立リニア見学センターへと視察に訪れた。3階建ての建物のいずれの階からも実際にテスト走行をしている車両を見ることができ、数々の展示は全てリニア開通がもたらす恩恵について雄弁に語られていた。このことからデメリットばかりを押し付けられている形の静岡県と他府県との温度差があらためて浮き彫りとなった印象である。『7千万人の大交流リニア都市圏のイメージ図』という展示パネルには、リニア実現前にはしっかりと記載のある「静岡377万人」の文字が、リニア実現後には省略されていることから、奇しくも沿線地区及び大都市以外の存在感がさらに希薄となってしまうことが、皮肉にも表現されてしまっていた。首都圏と中京圏のあいだに挟まれた我々の地域が、2027年以降も持続可能なエリアとしてあり続けるためにはどのような取り組みが必要であろうか、今まさに正念場であると考えられる。

今回は主に水資源について学ぶことができたが、リニア構想自体には環境への影響のほか、社会構造の変容からくる収益性の検証、また走行に伴う大電力需要の問題など、まだまだ課題は尽きない。民間事業者による計画とはいえ、少なからず公的資金が投入され、またその採算性如何ではその先行きですら不透明との見方もある。前述のとおり働き方が変わったことで、航空会社のみならず「リモートワーク」もライバルとして台頭してきたと言えるであろう。

我々流域市町8市2町は、今後も足並みを揃え「水と環境」を守るべくしっかりと訴えを続けるほか、今一度立ち止まり、この事業の必要性を世に問い、国民議論を巻き起こすための投げかけをするべきではないか。リニア構想自体、その始まりが1962年ともうすでに60年に喟々とする非常に古くからのものである。当時描かれていたスケールメリットは、時を経て21世紀の時代を歩む我々に、果たして今ももたらされるのであろうか。駅前再開発や観光PR、企業誘致などを見込んだ沿線自治体の思惑や期待感には理解をするものの、将来に負の遺産を決して残さぬように今我々がしっかりと議論を尽くさねばならないとあらためて感じるに至った視察であったし、個人的にも、やはりリニア中央新幹線計画自体に承服できかねるという考えに変わりはない。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

6 番議員 藤野 守

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>現在のリニア新幹線工事に係る論点は大きく大井川流域の流量減少問題と南アルプスの自然環境が破壊される恐れの 2 点に集約される。特に大井川水系に生活する 6 2 万人の用水の問題である。</p> <p>視察では先ず、山梨県笛吹市を訪問した。私は訪問の直前、笛吹市のリニア実験線の工事による水問題についてのテレビ放映を観ていた。そこでは地元桃栽培農家の K S という方が川の水枯れがあったことや J R 東海の不十分な補償等対応への不信感を語っていた。この放送を踏まえて笛吹市の説明を聞いた。この中では牧之原市議会からの質問に対し、回答は「補償に関し市は関与していない」「市民生活への影響は少なかった」「水枯れ問題は事業者主体であり、県は説明会のやり取りに関与するが、対応は行わない」「自然環境に関する地域住民からの環境変化に対する意見は聞いていない」等の内容であった。これら説明を集約すると、ほとんど地域住民の大きな反対意志等は感じられないということであった。</p> <p>笛吹市当局から J R 東海とはリニア問題に対して協調的に進めてきたことが説明された。また、J R 東海は様々な住民要望に対しても応えてくれていること等の説明もあった。この点、私の事前の認識と相当ズレがあったと感じた。このズレは静岡県と笛吹市及び周辺の開発との地理的範囲が相当異なっていること及び影響を受ける人口規模によるものではないかと思う。静岡県のリニア工事による水問題は流域 6 2 万人の生活用水と農業、工業用水としての「命の水」であることに端を発している。県と周辺市町はこの重大な点を繰り返し問題提起している。県では川勝知事がリニア中央新幹線整備について賛同の立場を表明しているが、水問題に関しては「県民の懸念が完全に払拭されるまで工事着工を認めない」と強い決意を持っている。また、県は科学的根拠に基づき、大井川水系の水資源の確保と自然環境保全の立場で J R 東海などに対応してきている。</p>	

静岡県内での住民意見は「お金で水は調達できない。新東名トンネル工事では粟ヶ岳の自然湧水が枯渇した」「トンネルを貫通させれば、山体を保持している地下水が永遠に流出する、山が砂漠化して取り返しがつかなくなる」「渓谷美や豊かな森が喪失し、固有種、希少種の動植物が死滅する」等、大変な心配をしている。

リニア問題は静岡県の対応に他県から静岡バッシングともいえる状況がある。このような状況の中で最近はややリニアの必要性や開業までの不透明感を指摘するなどマスコミ論調が変わってきている。今後さらに静岡県と国土交通省、JR東海の動きが注目される。直前のテレビ番組では笛吹市民のKS氏が静岡県はリニアの問題について県と関係市町が一体となってJR東海との交渉や意見のやり取りを行っていることに対して重要な姿勢であると評価していた。工事が進行し、完了後に水涸れとなることがあってはならない。

今回の視察ではリニア実験線に対する行政サイドとの意見交換であった。山梨県あるいは笛吹市当局の情報のみならず、8市2町の地元住民の立場で議論していくことが重要であると感じた。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

8 番議員 植田 博巳

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>リニア実験線トンネル工事において、河川 2 系統の減水と 8 地区 10 箇所の間戸枯れが発生した事例を直接聞き取るため現地視察を実施した。</p> <p>1 工事の経過と結果</p> <p>(1) 事前調査</p> <p>トンネル工事での沢水減水とこれに伴い河川水の減少、井水の水位低下、枯渇は事前に想定され、このための調査や水位測定を行い、事後の状況を把握出来るよう対応している。</p> <p>(2) 住民への工事説明</p> <p>説明会は 100 回ほど行われて、事前に調査状況及び被害が発生した場合の対応・補償関係が話し合われている。</p> <p>(3) 被害後の対応</p> <p>河川の減水、間戸枯れの対応など、住民、市役所の要請により、鉄建公団による上水道への転換や補償など迅速な対応により、市民生活に大きな影響は無く、その後の問題も発生していない。</p> <p>住民、市役所、鉄建公団の関係は良好であった。</p> <p>なお、県及び市は説明会などには関与しているが、課題対応は事業主体が実施すべきものとして鉄建公団が行った。</p> <p>(4) 環境評価</p> <p>環境への影響については、環境影響評価書及びIP公表のみで、地域住民からの意見は聞いていないとのこと。</p>	

2 考察

一般的なトンネル工事と同様に事前調査、説明会、工事の影響とその対応と丁寧な説明と事後対応を行っていた。

トンネル工事による地上部への影響は、一般的にトンネル中心から45度の範囲に影響が出ると言われている。当該トンネルもその範囲で影響が出たものと推測する。このことから、水枯れなどの説明と対応を事前に地域住民に示されたことにより、完成後のトラブルが無かったものと思われる。

今回のリニア新幹線の水問題、環境問題においても、同様な対応をするものと思われるが、その規模や破碎帯からの出水の評価は大深度地点におけるもので、事前調査を確実に行っても想定であり、工事期間中の出水が季節による変化も含め、どのようになるか不明である。当然、先導坑（試験導坑）により地質や出水量を把握して本坑に着手することになり、先導坑（試験導坑）による調査が重要になる。このことから、現在のボーリング調査、弾性波探査に加え、試験坑による調査が必要と考えられる。

（現在、試験坑による調査をしているか否かは解らない。また、試験坑事態が工事着手ととらえるならば出来ないが）

環境影響調査は、自然環境、動植物の実態調査と工事による影響評価は重要事項であり、十分な調査により、影響を把握し、対応方法を地域に示すことが求められる。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

9 番議員 村田 博英

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>山下正樹笛吹市長の挨拶でまず JR 東海さんとはうまくいっている発言があり、どのような展開になるのか興味が湧いた。</p> <p>荻野委員長の説明が分かりやすかった、まず山が枯れるわけではない、頂上付近は枯れてもその下は目に見えて減ったという印象はなく、また減衰した水は戻してくれている、補償も潤沢である、市民からは水に関してのクレームや問題提議はない、一部の人ではあるが水ではなくリニアで発生する電磁波による身体への影響を指摘している。</p> <p>リニア見学センターについてはデモビデオが印象に残った、山梨県から見れば江戸から甲州への甲州街道は五街道の主要な交通でありその歴史を遡れば今のリニアに至る、</p> <p>また山手線は一周 1 時間、大阪環状線も凡そ 1 時間弱であり、東京と大阪をリニアは 6 7 分で結び、2 大都市をひとつにする、世界一の経済圏を作るとのことです。</p> <p>中々うまいプレゼンである、私はリニア反対ではなくむしろ大いに経済発展のため進めてほしいと思っているがそのためにも水問題を一部の問題と無視をせず、日本が誇る南アルプスを壊さず リニアを作った技術力で解決をしてほしい。</p> <p>我田引水という諺があるが後世に笑われることないよう願う。</p>	

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

10 番議員 良知 義廣

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>1 笛吹市の説明</p> <ul style="list-style-type: none">トンネル工事により御坂町において河川 2 系統が減水、井戸 8 地区 10 カ所が枯渇した。河川についてはトンネルから出る湧水を河川へ戻している。減渇水が発生した地区については、市が地元の立場に立って間に入り、建設団体に働きかけを行って対応した。トンネル工事による水枯れの補償については、最高 30 年となっており、30 年後の取り決めはされていない。農業用水については、畑灌加入による補償がされた。どの補償も地縁団体と鉄建公団で行っているため、市は関与していない。市民生活への影響については、応急対応が迅速に行われたため、生活への影響は少なく、また、飲料水については、緊急災害用上水道タンクの使用や、井戸補償、恒久対策による市上水道使用により補償されたため、市民生活に大きな影響は出なかった。県は、月何回となく行われた地区説明会におけるやり取りには立ち会ったが、水の枯渇対応については対応する立場でないとした。工事における希少種を含む生態系等への影響についての住民からの変化に対する意見は聞いていない。 <p>2 視察研修を振り返って</p> <ul style="list-style-type: none">山梨県笛吹市の場合、トンネル工事による水枯れの補償は最高 30 年ということで、その後に水枯れ、枯渇となったときは何ら取り決めされていないということである。30 年以内に水枯れとなった場合は、補償期間中であることから工事と水枯れとの間に因果関係が認められやすいと考えられ、井戸堀削、代替水の補給等が認められるものと思われるが、それ以後、補償期間が過ぎてからの因果関係の	

立証は時の経過もあり非常に難しいものと思われる。この点は十分に心しておくべきであると思う。

- 当県におけるリニア新幹線トンネル工事における大井川水系の水資源の確保については、トンネル掘削に伴う大井川中下流域の地下水への影響、トンネル湧水の全量が大井川表流水への戻し等を問題視してきているが、現状は曖昧のままである。山梨県笛吹市の場合、近くに甲府駅が設置される所であり、また、国策としての事業と認識しているところから、事業推進第一で当該事業が行なわれてきたものと考えられる。当県においても、事業推進に協力することはもとよりであるが、地下水の環境影響評価とトンネル湧水の全量戻しは8市2町の平穏な暮らしに欠かすことのできない「命の水」であることを大前提に、また、国策というキャッチフレーズに惑わされることなく取り組んでいくべきであると考え

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

11 番議員 澤田 隆弘

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
実施日	令和 3 年 3 月 30 日
参加人数	17 名 (議員 13 名、議会事務局ほか 4 名)
視察目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
	<p>(1) トンネル工事により、水枯れが起こった尾坂町について</p> <ul style="list-style-type: none">・地域住民の反応は (天川、金川) 河川 2 系統が減水。井戸 8 地区 10 か所が枯渇。河川についてはトンネルから出る湧水を河川へ戻している。簡易水道においては再度井戸を掘削し配管。管理棟も新しくなり保証金を渡し管理する形となっている。・地域住民に対する対策は 等 保証については最高 30 年となっており、30 年後の取り決めはされていない。 農業用水については、畑灌加入による保証がされた。どの保証も地縁団体と鉄建公団で行っているため、市は関与していない。 <p>(2) 水枯れ発生の現状とその後 減渇水が発生した地区 (天川、金川) において減水、井戸が渇水。地元の立場に立ち市が間に入り、建設主体である鉄建公団に働きかけを行い対応。 市民生活への影響については、応急対応が迅速に行はれたため、生活への影響は少なかった。飲料水については、緊急災害用上水道タンクの使用や、井戸保証、恒久対策による市の上水道使用により保証されたため、市民生活に大きな影響は出なかった。 実験線においての現時点での対応は、行っていない。</p> <p>(3) 実験線の工事前説明会は、誰がどのように行ったのか 実験線ルート発表が行われた初期段階では、JR 東海、鉄道総合研究所、鉄建公団の 3 社の担当等が行ったが、工事着手を前提にした説明は、担当区間により J R 東海または鉄道運輸機構の担当者が行った。</p>

(4) 説明会での県の関わり方は

水枯れの対応は事業主体が行うものであり、県は説明会のやり取りには立ち会うが対応を行う立場にない。

(5) 工事による環境（希少種を含む生態系等）への影響について

環境影響評価書およびHP公表結果のみであるが、地域住民からの変化に対しての意見は聞いていない。

環境、水問題については専門家が対応して頂くので心配ない。

(6) リニア対策特別委員会の活動について

1 地区 100～200 回 8 地区あるが工事の着手前、年間 10 回工事の問題について話し合いを行った。

(7) 現在の課題は

水枯れ、渇水よりリニアの騒音、地盤沈下、日陰等が心配。

当地は東京より 20 分位で来れるので、賑やかになる事もあるが逆の事も考えられる。

リニアの駅が出来るので産業、経済ががどのようになるか。

笛吹市の担当者の説明、答弁を聞く限り工事前説明会を何回も開催して地元の方達が了解したうえで、トンネル工事を行った結果 8 地区が渇水、減水になった、鉄建公団が 30 年間の保障してくれる事で 8 地区の方達は納得された。説明後現地に視察に行ったが川には水が思ったより流れていたの理解できた。同じトンネル工事ではあるが静岡県のトンネル工事と笛吹市のトンネル工事は規模や条件が全く違うと思う。大井川に関係する、市町 8 市 2 町の生活用水、農業用水、工業余水、畜産業、その他にもいろんな所で水は必用とされております。絶対大丈夫はないので慎重に取り組んで頂きたい。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

13 番議員 太田 佳晴

研 修 名	令和2年度 全議員視察研修
研修の期間	令和3年3月30日（火）
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>今回の視察目的である「リニア実験線工事による水枯れ問題」について、笛吹市では一部河川で水枯れが発生したことは事実として認めてはいるが、市としては全く問題の認識は存在しない旨の説明には少し驚きであった。</p> <p>しかし、笛吹市（山梨県）の立場からしてみたら、工事により一部河川が水枯れを起こしたことは、地域が将来に渡り享受するであろう遥かに大きな恩恵のことを考えたときに、さほど大きな問題とは考えていないとの外部アナウンスは当然かも知れない。</p> <p>このことを強く感じたのは、冒頭の山下市長のご挨拶の中でも、JRと良い関係であるということをはっきり公言していたこと。そして、小澤副市長が説明したJRの保証対応について、「過剰なる保証」という表現が使われていたこと等からである。</p> <p>私たち静岡県は、とりわけ流域で大井川の大きな恩恵を受けている市町にしてみれば、リニア新幹線トンネルが南アルプスを突き抜けることにより、想定される様々な環境へのダメージに勝るメリットが見いだせない現状において、トンネル工事の問題解決の糸口すら見いだせないのは、立場の違いから仕方ないことを強く感じた。</p> <p>水枯れに対するJRの保証は30年後までだが、それ以降についてはどのように考えるのかに対して、「満たされる対応により、問題視出来ない状況」とのお話があったが、地域の自然環境の保全について、将来の責任の持ち方ということでは少し疑問を感じた。</p> <p>国策に乗り大きなメリットを考えている笛吹市（山梨県）と、何のメリットも見いだすことが出来ない牧之原市（静岡県）では、リニア新幹線工事に対する考えは大きく隔たりがあっても当然ではある。でも、後世の人々の評価に値する対応を考えることが、今を生きる人たちのすべき最も大切なことだということを考えると、「将来への責任の持ち方」に対する基本的な考えは、立場は違えど共有したいと思った。</p> <p>リニア新幹線の南アルプストンネル工事の件について、今後静岡県には、周辺他県そして国からも大きな政治的圧力が掛かって来ることが予想される。</p>	

牧之原市議会としても大井川流域8市2町の議会との連携をしっかりと取りながら、市長と共に静岡県の今の姿勢をしっかりと支援していくことが最も大切だということを、今回の研修で再認識をした。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

14 番議員 大石 和央

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>◎実験線経緯概要</p> <ul style="list-style-type: none">・1997 年(平成 9 年) 先行区間 18.4 キロメートルで走行試験が行われる。・2009 年(平成 21 年) 7 月には国の「超電導磁気浮上式鉄道実用技術評価委員会」が「営業線に必要となる技術が網羅的、体系的に整備されたと判断できる」と評価。・2011 年(平成 23 年) 先行区間での走行試験を終了。・2013 年(平成 25 年) 8 月に実験線全線 (42.8km) が完成し、走行試験が再開される。 <p>◎工事による影響 (笛吹市)</p> <p>1997 年 4 月、山梨県でリニア走行実験が始まると、周辺の河川や沢が次々と枯れ始めました。</p> <p>2009 年、山梨県笛吹市御坂町では、2008 年に実験線の延伸工事が始まると、町の一級河川・天川 (てがわ) が枯れる。</p> <p>金川の減水、御坂町上黒駒の井戸が湧水 (簡易水道、湧水、農業用水、自家井戸沢枯れ)。</p> <p>◎水枯れ対策、補償</p> <p>補償として貯水タンクが設置されたものの補償期間は 30 年間に限られ、以降は自己負担になる。どの補償も地縁団体と鉄建公団 (鉄道・運輸機構)で行っているため、市は関与していない。</p> <p>◎考察</p> <p>笛吹市は生活用水、農業用水などへの影響は補償や恒久対策が取られ市民生活に大きな影響は出なかったとし、実験線においての現時点での対応は行っていないという。しかし一方、被害に遭った当事者の中には「ちゃんと勉強しなければダメだった…」</p>	

と当時を振り返る市民がいることも忘れてはならない。補償期間の30年後はどうなるのか。また、市役所での説明の後、金川橋梁とトンネル入り口付近の湧水の現場を視察した。トンネルからの湧水は毎秒0.5トンと言われているが、金川に捨てられている。現在、市民生活に影響ないといわれているが、将来的に取り返しのつかない事態にならないことを祈るばかりだ。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

16 番議員 中野 康子

研 修 名	令和 2 年度 全議員視察研修
研修の期間	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火)
研 修 先	山梨県笛吹市、山梨県立リニア見学センター
研修の目的	リニア実験線工事による水枯れ問題について
<p>笛吹市の人口は 68,559 人、牧之原市より約 25,000 人多い。 桃とブドウの生産量・出荷額共日本一の市である。 リニア新幹線が甲府市を出発し、笛吹市通り名古屋までの行程である。トンネルを掘って水が枯渇した為に、区長が様々な調査を依頼し、市・県へ意見を出したと聞いており、大きな関心を持って視察した。</p> <p>初めの市長挨拶で「JR とは、大変いい関係である。」との話を聞き、どのような意味なのか疑問を感じた。</p> <p>お伺いすると「現在の副市長が職員時代に中心になって JR と市民の仲立ちをし、数多くの難問題を解決、30 年間の保証も話し合いの中で上手く行き、環境の変化も何の問題無く経過している。」旨の話があった。</p> <p>全てうまくいっている旨の話を伺い、各地域への説明会を市が仲立ちして、JR と市民が話し合ったとのこと。全て JR のやりやすい形で事が進んでいったことが伺える。本当にリモートで仕事ができ、人口減少が進む中、ひたすらトンネルを進むリニア新幹線が今の時代に必要であるのか？考えさせられた。</p> <p>市民は、JR から 60 年間の保障を約束したとのことであるが、次の世代に本当に今の環境を残せるか疑問を感じた今日の研修会であった。</p>	